

第102回城山地区まちづくり会議全体会結果

日 時：令和5年4月27日（木）

午後7時～午後9時

会 場：城山総合事務所第1別館2階B会議室

出席者：18名（欠席5名）

傍聴者：3名

1 開 会 佐藤所長

2 自己紹介

新任委員及び新任事務局職員の自己紹介が行われた。

3 あいさつ 石原緑区長

4 報告事項

令和4年度地域活性化事業交付金事業の評価及び活動報告について

事務局より令和4年度地域活性化事業交付金事業の評価結果及び活動報告についての報告がされた。

5 議 題

（1）城山地区まちづくり会議代表及び区民会議委員の選出について

齋藤前代表（区民会議委員）の退任に伴い、役員会から推薦（資料2）のあった小島盛夫委員の代表選出及び区民会議委員への推薦について、審議を行った。

〈結 果〉

城山地区まちづくり会議代表及び区民会議委員について、小島委員とすることで承認がされた。

（2）（仮称）城山地区小・中学校の学習環境のあり方検討協議会の委員について

まちづくり会議委員の退任に伴い、まちづくり会議代表から推薦のあった委員の本協議会委員への推薦について、審議を行った。

推薦委員を検討した結果、次のとおりとなった。

	分野	推薦委員
1	地域関係	小島 盛生
2	地域関係	林 和博
3	地域関係	井上 貢一
4	地域関係	西川 正行
5	地域関係	安西 忠義
6	保健福祉関係	宗田 真理子
7	防犯・交通関係	田野倉 隆彦
8	教育関係	片倉 理恵

(3) 令和5年度地域活性化事業交付金申請事業に対する意見について

最初に、事務局から令和4年度相模原市地域活性化事業交付金制度の概要等について説明を受けた。

続いて、申請事業ごとに申請者から事業概要の説明を受け、質疑応答の後、当該事業に対するまちづくり会議としての意見を取りまとめた。

ア 事業名：しろやま☆おせっかい

団体名：城山地区まちづくり会議 高齢者とともに築き支える地域づくり部会

(○委員の意見・質問、●申請者の回答)

《主な意見・質問、回答》

- 本事業を継続するために、資金調達はどのように考えているか。
- 現時点では地域活性化事業交付金以外の資金調達の目処は立っていない。
おせっかい風土を広め、根付かせるのが本事業の目的であるため、目的が達成されれば資金調達をして事業を進める必要性はないと考えている。
- 資金の調達がなくても事業を継続できることが理想ではあるが、資金が必要になる場合を想定し、資金調達方法を検討してほしい。
- 参加者の集合場所、移動手段等の安全面に配慮してほしい。

《まちづくり会議としての意見》

- ・ 4年目以降の資金調達方法を考えて、持続可能な事業にしてください。
- ・ 残り2年間でできるだけ定着が図れるよう努めてください。
- ・ 参加者の安全に配慮して取り組んでください。

イ 事業名：城山湖ヒルクライムアタック雌龍籠山ステージ

団体名：城山湖ヒルクライム実行委員会

(○委員の意見・質問、●申請者の回答)

《主な意見・質問、回答》

- ボランティアは何名参加しているのか。
- 80名程度である。自治会の協力が多。
- 市民が一体となって盛り上がるよう工夫するとは、どのような内容か。
- 発電所のゲートを通じた後のゴールまでを応援・観戦場所としたいと考えており、ゲートでドラムを鳴らすなど、観客と一体になれる演出を検討している。
- 参加者のうち、リピーターが占める割合はどの程度か。
- 半数程度はリピーターである。
- 競技をやっている場所が分かりづらい部分があったため、観戦したい地元の人に向けて、現地での周知を図ってほしい。
- 4年目以降の事業継続を考え、参加者負担金を上げるのも一つの方法だと思う。
- 事業継続のためスポンサーによる協賛金の増額は考えていかなければならないが、今年度は地域活性化事業交付金を交付するので、営業的要素が前面に出すぎないように実施をするべきだと思う。
- 城山地区の目玉事業となるよう、さらなる情報発信、事業拡大を期待したい。
- 地域との連携強化に向け、具体的な方策、企画を考えてほしい。
- ママチャリでも参加できるようなメニューは考えているか。
- 幅広い層が気軽に参加できるようなメニューも検討していきたい。
- 参加者の安全に配慮してほしい。

《まちづくり会議としての意見》

- ・事業採算も考え、自立した事業として継続できるよう収入確保を考えてください。
- ・今年度は営業的要素が前面に出すぎないように実施してください。
- ・地区の目玉の事業になるように交付金を活かして実施してください。
- ・地域との連携強化にこれからも取り組んでください。
- ・住民が気軽に参加して楽しめるメニューを検討してください。
- ・参加者の安全に配慮して取り組んでください。

ウ 事業名：みんなの津久井湖夏祭り

団体名：みんなの津久井湖夏祭り実行委員会

(○委員の意見・質問、●申請者の回答)

《主な意見・質問、回答》

- 商工会等の特定の団体の後ろ盾があって事業を実施しているのか。
- 実行委員会のメンバーには入っているが、特定の団体に頼らないイベントになっている。特定の団体に属していなくても、地域のための力になりたいと考えている人がいるので、本実行委員会が一つの選択肢になりたい。
- 花火は何発打ち上げられるのか。
- 昨年は60発程度。
- 夏と言えば花火という印象があるので、協賛金のみならず、一般の方から記念の花火というかたちで募って上げるのも一つの方法である。
- 特定の団体主体のイベントが多い中、一個人が立ち上げて企画を成功させており、力強さを感じる。協賛金はどのように集めたのか。
- 準備期間が短かったため、実行委員会委員の知り合いの企業等に声をかけた程度である。
- 若い人の力であればほどのイベントを成功させ、感動した。最終日はゴミ拾いまで行っている。令和5年度から開催することを考えていたと聞いているが、力強く前に進めて令和4年度開催にこぎつけた。ぜひ今後も継続して頑張ってもらいたい。
- イベントの催し物の参加者をどのように募っているか。
- 昨年は準備期間が短く、公平な声かけはできず、知人や声かけをいただいた団体をお願いした経過がある。今年はいろんな媒体を使った応募方法を検討したい。
- 駐車場として校庭を貸し出している中沢中について、学校の閉校日であれば協力可能であるが、閉校日でも構わないか。
- 公共の交通機関を使うよう呼びかけても、結局車での来場が大多数になるので、駐車場確保が最優先。閉校日に開催日を設定したいと考えている。
- つくい湖湖上祭の際、ぬかるんだグラウンドにたくさんの車が来場し、グラウンドが荒れて授業に影響が出たと聞いている。原状回復をしていただきたく、そのための予算を計上することはできないか。
- 駐車場の原状回復予算を計上する予定である。
- 従来の古い事業展開ではなく、若い力で新しい発想での事業展開を期待したい。
- 子どもたちが参加して楽しかったという声が多かったなので、地元の方が参加できるメニューを盛り込んでほしい。
- 安全面を強化して実施してほしい。
- 地域外の人と地域の人と交流できる工夫をお願いしたい。
- 地域の文化・伝統を大切にしたい企画を取り込んでほしい。
- このようなイベントを通じて、地元を愛する子どもたちが育つと思う。自分もこのイベントに関わりたいと考える子どもたちもいるだろうし、この

祭りがきっかけで将来この地域に戻ってくる人もいるかもしれない。素晴らしい事業であるため、ぜひ継続して行ってほしい。

《まちづくり会議としての意見》

- ・若い人の輪と発想で事業を継続して、定着させてください。
- ・地元の人に参加できるイベントにしてください。
- ・安全面の強化を図ってください。
- ・地域との密接な交流を図ってください。
- ・若い人の力だけでなく、地域力、伝統文化を取り入れてください。
- ・特徴のある、地元を愛することができるイベントにしてください。

6 閉 会 曾根副代表

以 上

第102回城山地区まちづくり会議出欠席者名簿

任期: 令和4年4月27日～令和6年4月26日

番号	分野	団体名	役職等	委員氏名	出欠
1	地域関係	城山地区自治会連合会(会長)	代表	小島 盛生	出席
2		城山地区自治会連合会(副会長)		林 和博	出席
3		城山地区自治会連合会(副会長)		中野 秀人	出席
4		城山地区自治会連合会(川尻小学校区)		井上 貢一	出席
5		城山地区自治会連合会(湘南小学校区)		西川 正行	欠席
6		城山地区自治会連合会(広陵小学校区)		安西 忠義	出席
7		城山地区自治会連合会(広田小学校区)		小原 貴弘	欠席
8	保健・福祉関係	城山地区社会福祉協議会		井上 章	出席
9		城山地区民生委員児童委員協議会		菅野 敬子	出席
10		城山地区シニアクラブ連合会		金子 宏夫	出席
11		城山ボランティア連絡会		宗田 眞理子	出席
12		城山地域包括支援センター		藤瀬 香理	欠席
13	産業・経済関係	城山商工会		平栗 文夫	出席
14		城山観光協会		桜井 かおる	出席
15		相模原法人会(津久井第1支部)			
16	防犯・防災関係	安全・安心まちづくり推進協議会城山支部		小野寺 義行	出席
17		相模原市消防団北方面隊		田野倉 隆彦	欠席
18	教育関係	城山公民館運営協議会	副代表	八木 正夫	出席
19		PTA連絡協議会城山ブロック協議会		牧田 紀代乃	出席
20		城山体育振興協議会		長田 尚	出席
21		城山地区小中学校長情報連絡会		井上 成子	出席
22		特定非営利法人 城山スポーツ&カルチャクラブめいぷる		片倉 理恵	欠席
23	有識者		副代表	曾根 哲男	出席
25				金子 直美	出席

出席者数 18人

欠席者数 5人

第102回城山地区まちづくり会議 全体会次第

日 時 令和5年4月27日（木）
午後7時から
会 場 城山総合事務所第1別館
2階B会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 報告事項

令和4年度地域活性化事業交付金事業の評価及び活動報告について

ア 地域活性化事業交付金 事業採点結果 資料1-1

イ 地域活性化事業交付金 活動報告 資料1-2・3

4 議 題

(1) 城山地区まちづくり会議代表及び区民会議委員の選出について 資料2

・代 表 _____

・緑区区民会議委員 _____

(2) (仮称) 城山地区小・中学校の学習環境のあり方検討協議会の委員について

. 資料3

・令和5年1月26日全体会での決定委員

	分野	推薦委員
1	地域関係	齋藤 信夫
2	地域関係	小島 盛生
3	地域関係	林 和博
4	地域関係	西川 正行
5	地域関係	八木 佐利
6	保健福祉関係	宗田 眞理子
7	防犯・交通関係	田野倉 隆彦
8	教育関係	片倉 理恵

裏面に続く

(3) 令和5年度地域活性化事業交付金申請事業に対する意見について

- ア 地域活性化事業交付金制度の概要 資料4-1
- イ 地域活性化事業交付金交付要綱 資料4-2
- ウ 地域活性化事業交付金申請事業に対する意見のとりまとめ方
. 資料4-3・4
- エ 地域活性化事業交付金申請事業について 資料4-5～8

5 閉 会

<次回の予定>		
第103回全体会	<u>5月25日(木)午後7時</u>	城山総合事務所 第1別館2階B会議室

令和4年度城山地区地域活性化事業交付金 事業採点結果一覧表

様式3

地区名	城山地区
-----	------

NO	事業名	団体名	継続年数	公共性 (配点12点)	妥当性 (配点12点)	継続性・自立性 (配点12点)	波及性・発展性 (配点12点)	目標設定 (配点12点)	地域性・独自性 (配点12点)	合計 (配点72点)	評価 ※1	総括コメント
1	城山カブトムシの里プロジェクト	昆虫文化を子供たちに伝える会	3	7	7	9	7	7	8	45	B評価	城山地区の魅力の一つである里山を活用した取組を通して自然環境の大切さや城山地区の魅力を伝えるとともに餌の循環によるSDGsを実践する等、3年間継続して積極的に取り組んだことにより一定の効果があったと考える。今後は長期的に事業を実施するための若い担い手の育成や資金の確保を行っていく必要がある。また、取組内容についても子どもたちが興味・関心を持ち楽しめる内容となるよう検討が必要と考える。
2	城山湖ヒルクライムアタック雌龍籠山ステージ	城山湖ヒルクライム実行委員会	2	9	8	8	10	10	11	56	B評価	ヒルクライム競技の運営に関しては、地元関係団体などの協力を得ることができ、企業等からの協賛金も前回より増額となり、参加者の増加と相まってイベントの定着度も向上したものと考える。今後は、事業継続が可能となるための自己資金の調達や人材の育成に努めていただくとともに、参加者だけでなく観戦者も楽しめ、オリンピックレガシーとして城山地区を代表するイベントとなることを期待しております。
3												
4												
5												

【評価方法】

A評価	65点～72点
B評価	29点～64点
C評価(交付終了)	0点～28点

資料1-1

令和 4 年度 地域活性化事業交付金 活動報告

団体名：昆虫文化を子供たちに伝える会

項目	月 日	事業の具体的な内容	参加人員
実施事業の 実績	5月7日、18日	神奈川テレビ(TVK)のテレビ番組『猫のひたいほどワイド』のレポーターである俳優牧田習さん（東大、博士課程）による取材を、仲間の高橋宗生親子、遠藤弘一氏と一緒に、カブトムシファームと雑木林で受け（5月7日）、昆虫文化を子供たちに伝える会の活動が放映（5月18日）された。	7人
	6月22～27日	『相模原里地・里山活動サミット展示会』をもみじホール城山で開催した。市内外の18の活動団体がポスター展示を行い、お互いの交流を図った。	60人
	7月16日～18日	『リアル昆虫採集 in 城山・相模原』を、城山公民館と川尻八幡宮上の雑木林で開催した。40組の家族が参加し、子供たちが自らの手で、バナナトラップを作り、夕方、雑木林の木にぶらさげて、翌早朝、自分の袋にいるカブトムシやクワガタを捕まえる体験を楽しんだ。	150人
	8月9日	『昆虫標本作製体験会』を野澤、筒井講師が子供たちを指導して、乾燥したカブトムシやクワガタの体をお湯で柔らかくし、金属針を使って、体型を整形して、きれいな昆虫標本に仕上げる標本作り体験会を開催した。	50人
	8月27日	『第4回昆虫講演会』顧問である小島渉先生（山口大、理学部、講師）に、ご自身の最新のカブトムシ研究を分かりやすく講演していただいた。夜の昆虫と言われているカブトムシがそうではなくて、オオスズメバチに樹液場を追われて、夜しか樹液を吸うことができないという新事実を説明された。この内容はその後、NHK等のテレビ番組で放送されていた。	110人
	9月27日～10月3日	『第3回昆虫文化のつどい』川尻小学校2年生の虫の絵を始め、多くの子供たちの昆虫体験ポスターをもみじホール城山で展示した。相模原市水みどり環境課製作のナラ枯れ紹介ポスターと京都府森林技術センターの小林正秀主任研究員から借用したナラ枯れを引き起こすカシノナガキクイムシの現物300万頭を展示し、多くの市民にナラ枯れ問題を知っていただいた。	100人
	令和5年1月19日～23日	『第2回新春昆虫文化のつどい』: 第3回昆虫文化のつどいで展示した子供たちの作品に加え、成虫のヘラクレスオオカブトや多くの昆虫標本をアリオ橋本の通路で展示した。ナラ枯れ紹介ポスターと京都府森林技術センター小林正秀主任研究員から借用したカ	多数

		シノナガキクイムシの現物300万頭を展示し、多くの市民にナラ枯れ問題を知っていただいた。多数の買い物客などの市民が来場し、多くの質問を受けた。	
	10月22, 23日	城山地区市民文化祭でポスターによる活動報告を行った。ナラ枯れ紹介ポスターと京都府森林技術センター小林正秀主任研究員から借用したカシノナガキクイムシの現物300万頭も展示した。	多数
	11月17日	『相模原市立博物館学びの収穫祭』にて、会の活動内容を口頭発表するとともに、ポスターでも発表した。相模原市を悩ます”ナラ枯れ”の原因となっているカシノナガキクイムシの現物を本村賢太郎市長など来場者にお見せした。	80人
	1月28日	『第5回昆虫講演会』川崎美紀講師による”知ってるようで知らないミツバチのお話し&失敗しない養蜂技術”の講演会を開催した。巣から取りだした蜂蜜の無料試食も行ったので、好評であった。	100人
	3月25日	『第3回春の昆虫文化フェスティバル』、かたくりの里広場で行う予定であったが、雨天のため、急遽、城山公民館に会場を変更した。山のようにした腐葉土の中から、子供たちがカブトムシの幼虫を掘り出す”幼虫ゲット”や虫の塗り絵、成虫のヘラクレスオオカブトやめずらしい虫の標本展示など、イベントが盛りだくさんのおまつりを開催した。本村賢太郎市長や石原朗緑区長、中島伸幸相模原観光協会専務理事なども来場され、市長と区長は子供たちと一緒に虫の絵を描くなど、楽しい時を過ごすことができた。	多数
事業実施により得られた効果	<p>本事業で行ったイベントに参加した小学生、幼稚園、保育園児は、昆虫に対する興味が増し、城山地区は自然が豊かで、カブトムシを始め、多くの昆虫や生き物が生息していることを理解してもらえたと考える。市内外、県外からもイベントに参加する人が増えたことより、城山地区の自然環境が緑区の有力な観光資源の1つであることを城山観光協会や相模原市観光協会に認識していただいた。また多くのイベントに本村賢太郎市長をはじめ、副市長、教育長、緑区長など行政に携わる方々の視察も増えたことで、公共性もあり、社会への貢献度も高いと考える。</p>		
実施事業に対する自己評価	<p>カブトムシを中心とした昆虫文化を子供たちに伝える会の活動には緑区のみならず、中央区、南区、市外、県外からも、年々、多くの親子が参加するようになり、城山地区の自然環境が子供に元気を与え、観光振興に役立つことが証明されたと考えられる。したがって、『城山カブトムシの里プロジェクト』の目的はおおむね達成されたと考える。</p>		
次年度以降の展望等	<p>『昆虫文化でまちづくり！子供たちに元気と科学の芽を！プロジェクト』のテーマで、相模原市市民協働推進課担当のゆめの芽ファンドの助成金を獲得することができたので、これまでの3年間の実績をもとに、今後もより多くの子供たちに自然環境の大切さを伝えるとともに、子供たちの交流機会の創出に努めていく予定である。</p>		

③リアル昆虫採集(7月16日~18日)



④ 昆虫標本作製体験会(令和4年8月9日)



日時：令和4年8月9日(火)
13:00~16:00(受付12:30~)

会場：相模原市民会館3階 第1大会議室

講師：野瀬 圭祐氏(昆虫収集家)

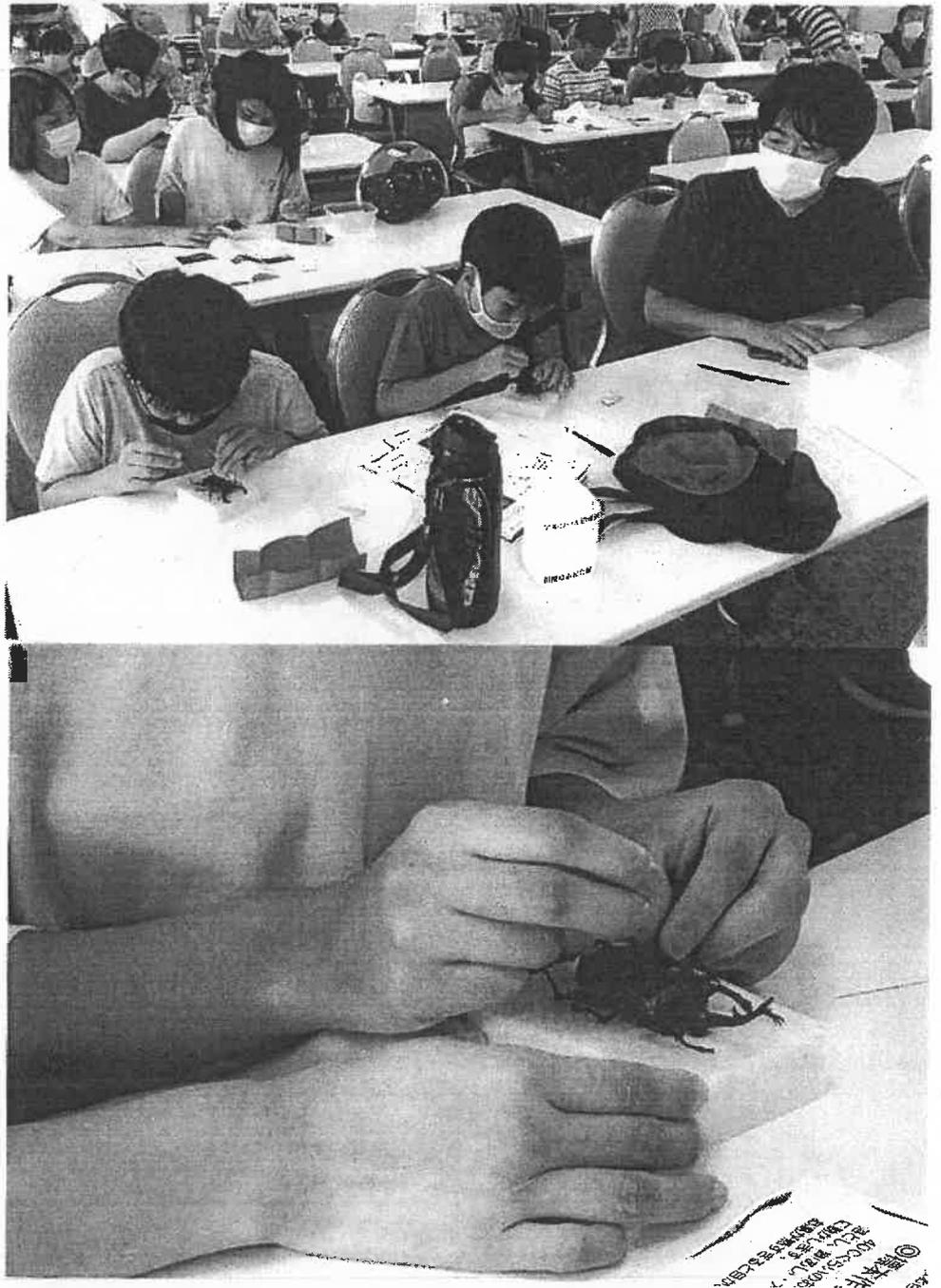
参加費：2,000円(資料、材料代)

対象：一般(小学生以下は保護者同伴)

定員：10組(申し込み多数の場合抽選)

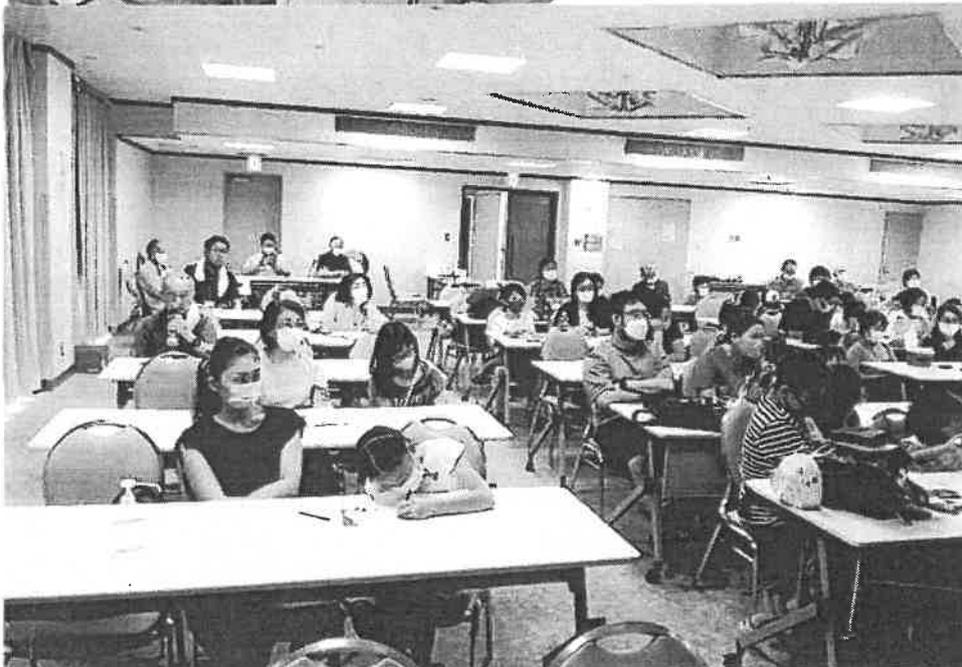
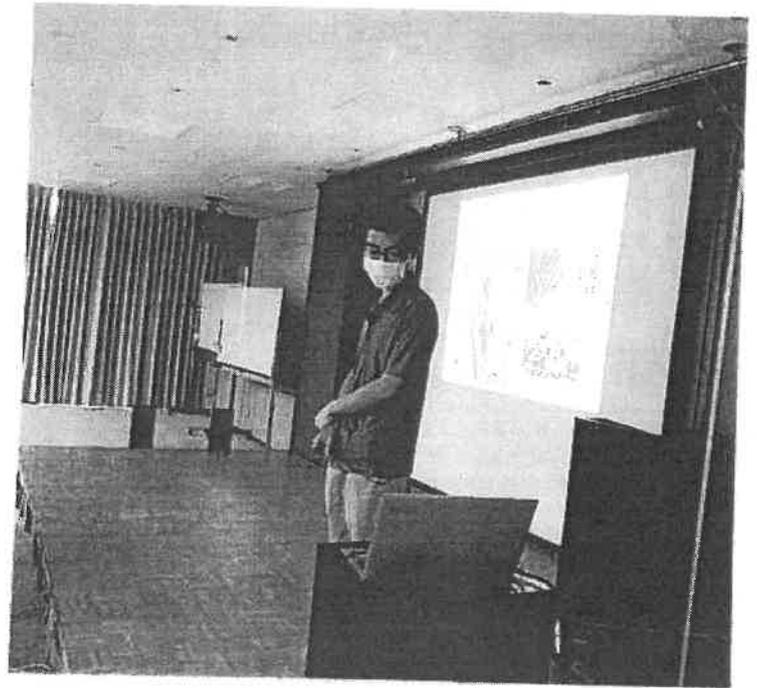
●申込方法● 申込期間：7月1日~7月31日
 ・参加者全員の名前(ふりがな)・学年(年齢)
 ・住所・電話番号 メールアドレス
 ・〜の欄を記入のうえ、
 kabuto-mushi@jcom.aq.ne.jp
 宛てにEメールにてお申し込みください。

主催：昆虫文化と子供たちに伝える会(三宅：090-3219-2805)
 共催：相模原市民会館(相模原市中央区甲斐3-13-15 TEL042-752-4710)
 後援：相模原市 相模原市総合振興委員会



© 昆虫文化と子供たちに伝える会
 〒252-0292 相模原市中央区甲斐3-13-15
 TEL 042-752-4710

⑤ 第4回昆虫講演会(令和4年8月27日)



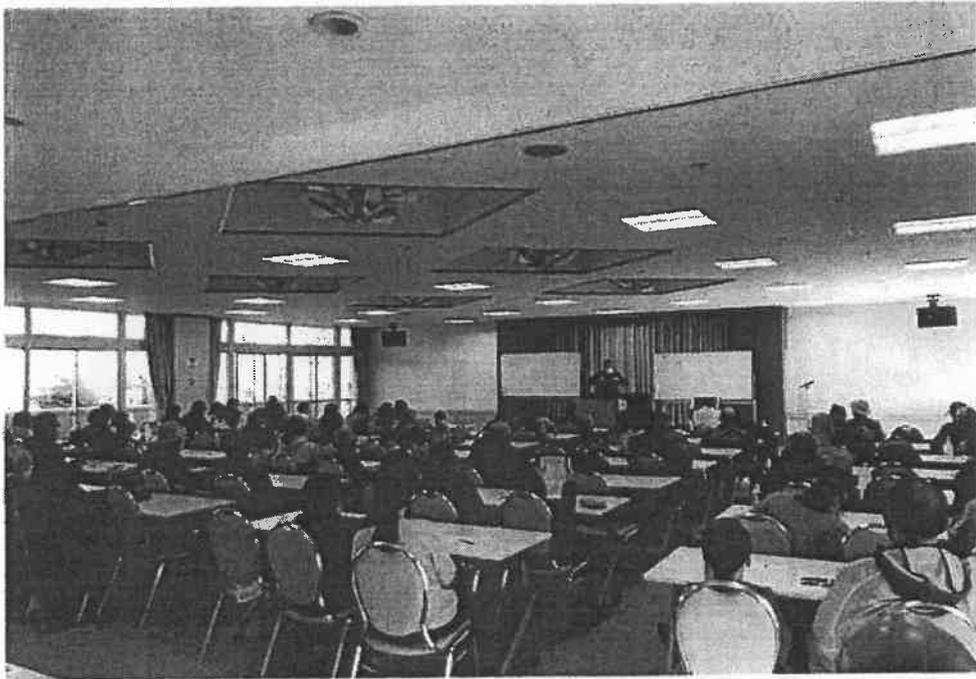
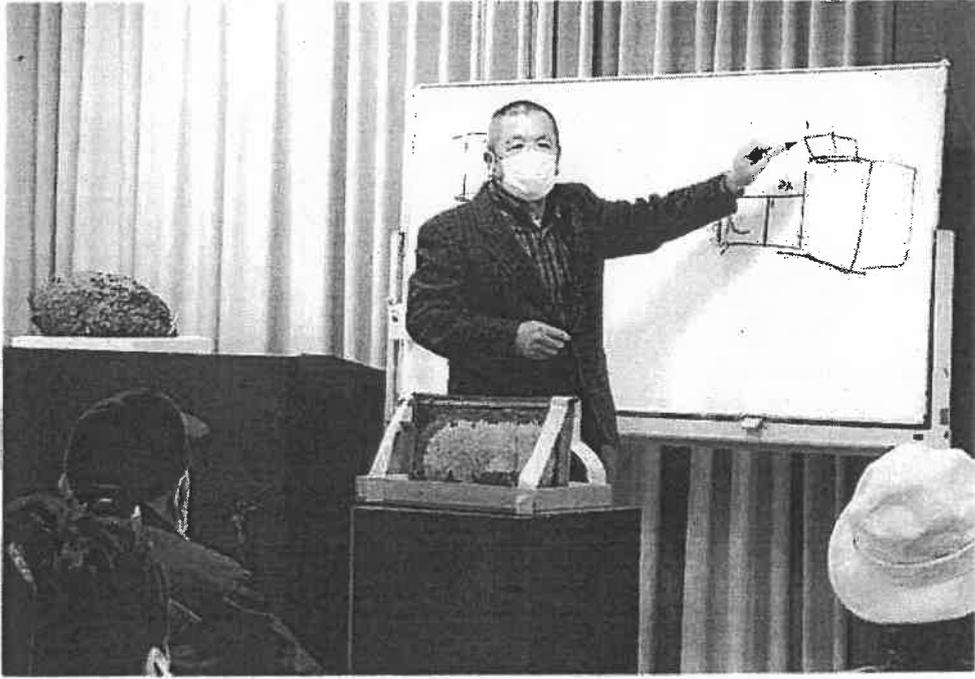
⑥ 第3回昆虫文化のつどい(9月27日~10月3日)



⑦ 新春昆虫文化のつどい(令和5年1月19日~23日)



⑧ 第5回昆虫講演会(令和5年1月28日)



⑨第3回昆虫文化フェスティバル(令和5年3月25日)

第3回 春の昆虫文化フェスティバル

3月25日(土) 10:00-15:00
雨天中止

参加費 1,500円/1組
(幼虫3匹、飼育キット、書籍、城山かたくりの入場引換券2枚を含む)

持ち物 軍手(幼虫をさわるときに使用)

会場 城山かたくりの昆虫館

主催: 昆虫文化を子どもたちに伝えたい会 (TEL: 090-3219-2803)

協賛: 岐阜県庁 岐阜県立自然史博物館 岐阜県立歴史博物館 岐阜県立自然史博物館 岐阜県立歴史博物館 岐阜県立歴史博物館

お問い合わせ: 090-3219-2803



令和 4 年度 地域活性化事業交付金 活動報告

団体名：城山湖ヒルクライム実行委員会

項目	月 日	事業の具体的な内容	参加人員
	6月 29 日	第1回実行委員会(キックオフ・業務分担)	12
	7月 22 日	第2回実行委員会(前回の開催内容確認・懸案事項確認)	12
	8月 19 日	第3回実行委員会(各係の進捗状況報告、確認)	10
	9月 15 日	第4回実行委員会(各係の進捗状況報告、確認・ボランティア説明会開催内容)	11
	10月 27 日	第5回実行委員会(各係の進捗状況報告、確認・必要備品、消耗品の手配状況確認)	12
	10月 27 日	ボランティア参加者説明会	50
	11月 9 日	第6回実行委員会(最終確認・前日準備手順)	7
	11月 12 日	前日準備(会場設営・最終準備状況の確認)	25
	11月 13 日	大会当日 参加申込:105名(出走98名)、ボランティアスタッフ80名、実行委員12名	190
	12月 22 日	第7回実行委員会(選手アンケート集計報告、大会の振り返り)	12
事業実施により得られた効果	<p>男性96名 女性9名(神奈川県55名 近郊県50名)合計105名の参加申込(当日出走は98名)があり、地域団体(自治会、観光協会、商工会等)や個人ボランティアの協力により、地域一体となった事業として開催することができた。また、第3回を迎えることにより参加者からロードレースとしての認知が高まり、城山地区の魅力発信の機会となった。</p> <p>本大会を通じて、ツアーオブジャパン相模原ステージとともにシティープロモーションの推進、シビックプライドの醸成につなげられたものと考えている。</p>		
実施事業に対する自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・地域団体、個人ボランティアの協力を得て地域一体となった事業運営を行うことができた。 ・大会キャラクター「めたつごちゃん」を作成しPRを行った。 ・大会ポスターの掲示、SNSでの情報発信等を積極的に行い早期に定員を充たすことができ参加数も増加した。 ・前回の成果を踏まえ、スタート方法の改善やリアルタイムでレース実況を実施。また出走選手のラストスパートの意識高揚ため、残り500M地点に「ドラ」を設置するなど観戦者と出走選手、待機選手への気分高揚となり、選手、観客、スタッフが一体となって事業の盛り上げに大いにつながった。 ・城山湖周辺を会場とすることで、城山地区の自然環境や観光資源をはじめとする魅力を発信することができた。 ・次回へつなげるために参加選手へのアンケートを実施し、「成果の見える化」を図った。 		
次年度以降の展望等	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を継続的に実施することで、魅力発信を行うとともにロードバイクで城山地区を訪れるような自転車ツーリズムの普及を図る。 ・将来的には、より多くの団体や地域と連携を図り、城山地区へ今まで訪れなかった年齢層の訪問者の増加を図るため、本大会がそのきっかけとなる一つのチャンネルとしてブラッシュアップを行っていきたい。 		

第3回城山湖ヒルクライムアタック雌龍籠山ステージ 活動写真

本部



ステージ



受付



計測・ゴール地点



救護



スタート地点①



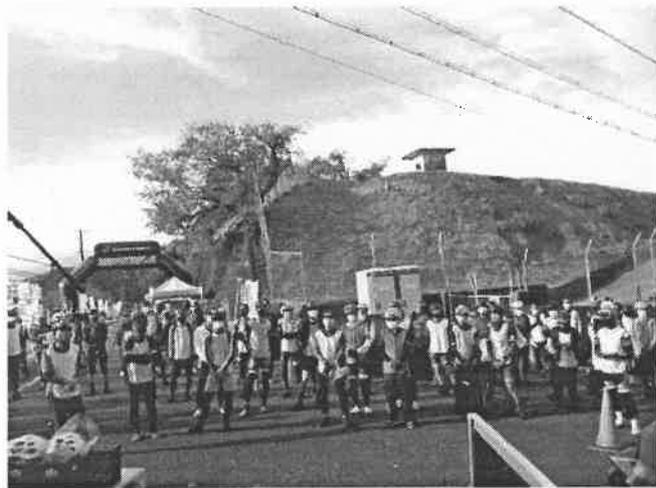
スタート地点②



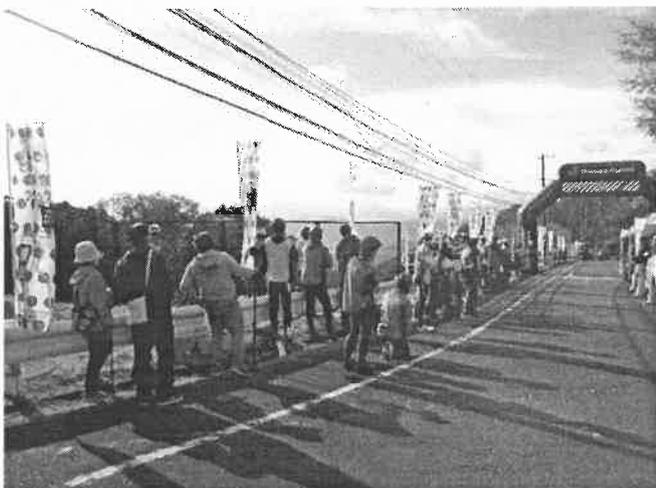
開会式①



開会式②



観戦風景①



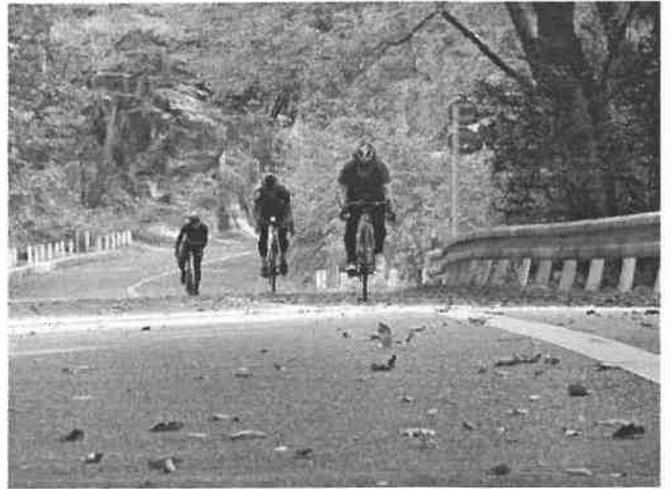
観戦風景②



競技風景①



競技風景②



ボランティアスタッフ



警備員



城山発電所前



チラシ・ポスター

第3回城山湖
ヒルクライムアタック
-めたつご山ステージ-

開催日 **2022.11.13 sun**
 定員 2,000名 予約率 4.5% 最大定員 10%

コース 3-3 全長 20.000m 平均勾配 4.5% 最大勾配 10%
 スタート 09:27:30

定員: 120人前後
 費用: 個人 ¥4,000円
 チーム ¥2000/1人

START (城山湖、城山湖公園、城山湖入口上)
 COURSE (城山湖公園、城山湖入口上)
 FINISH (城山湖公園、城山湖入口上)

参加者募集中!!
 大会エントリーはこちら!

新型コロナウィルス感染症対策にご協力をお願い致します。
 大会運営は、マスク着用、お入場時の検温を行います。
 主催: 城山湖公園 042-764-2065
 協賛: 城山湖公園 042-764-2065

PRステッカー (4 cm × 4 cm)



イメージキャラクター「めたつごちゃん」

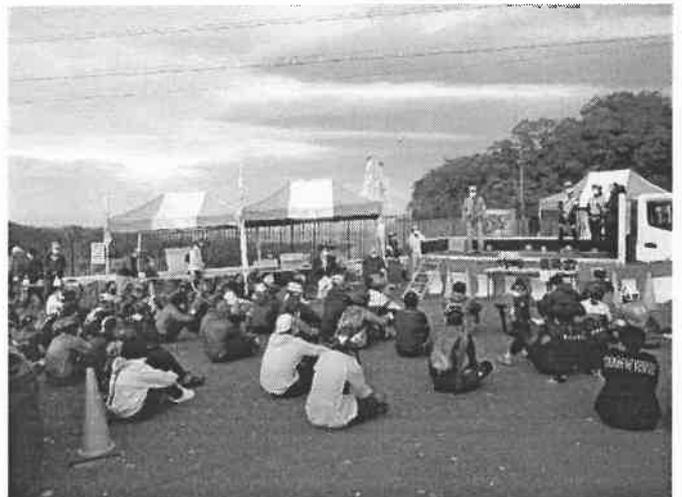


湖山湖ヒルタイムイメージキャラクター
めたつごちゃん

表彰式①



表彰式②



備品購入① (無線機)



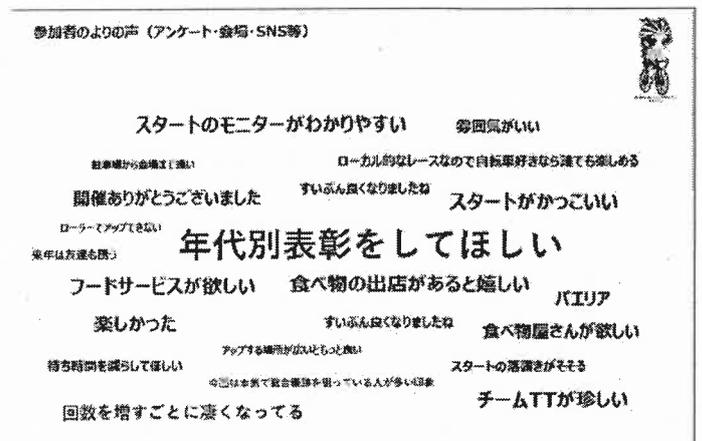
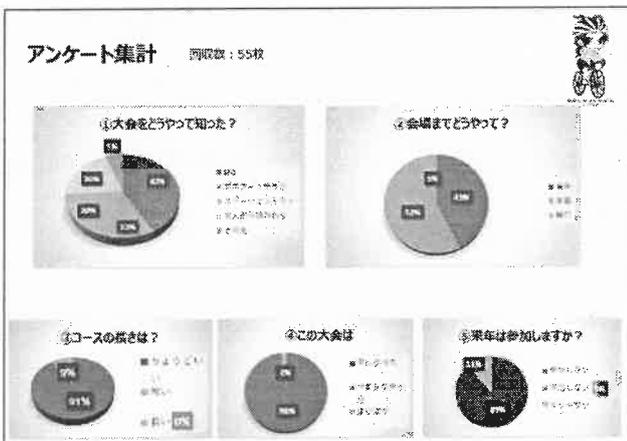
備品購入② (レシーバー・マイクセット) 左側



備品購入③—① (ポータブルPAシステム)



アンケート結果



城山地区まちづくり会議代表及び区民会議委員の選出について（案）

代表	小島盛生委員
区民会議委員	小島盛生委員

齋藤代表の退任に伴い、役員会において小島盛生委員に城山地区まちづくり会議代表及び区民会議委員の推薦がありました。

理由としては、小島委員は、城山地区自治会連合会会長として、地域の実情もよく把握されており、地域の課題について話し合いを行うまちづくり会議の代表に最も適任と考えられるためです。

○城山地区まちづくり会議会則（抜粋）

（役員）

第6条 まちづくり会議に代表1名、副代表2名の役員を置くほか、専門部会を設置したときは、専門部会長1名、副部会長1名の役員を置くことができる。

（役員を選出）

第8条 代表、副代表は、全体会において委員の互選により定める。

（全体会）

第11条 全体会は、代表が認めたとき、又は委員の過半数からの開催の請求があったとき、代表が招集する。

5 全体会は、委員をもって構成し、次の事項を処理する。

（2）代表及び副代表の選出に関する事

（3）区民会議委員の推薦に関する事

○相模原市緑区区民会議規則（抜粋）

（委員）

第2条 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

（1）区内のまちづくり会議から推薦された者

5 学務課第 4 2 6 号
令和 5 年 4 月 2 7 日

城山地区まちづくり会議代表 様

相模原市教育委員会教育長 渡邊 志寿代
(公印省略)

(仮称) 城山地区小・中学校の学習環境のあり方検討協議会委員について(依頼)

穀雨の候、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃から、本市教育行政に格別の御理解、御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、城山地区小・中学校の学習環境のあり方の検討につきましては、地域や保護者の皆様と共に検討を進める「(仮称) 城山地区小・中学校の学習環境のあり方検討協議会」の設置に向けて準備を進めているところでございます。

協議会の構成員につきましては、貴団体から既にご選出をいただいているところではございますが、現時点で会議の開催に至っておらず、また、貴団体における委員交代等の実状も伺っているところでございます。

つきましては、一度ご選出をいただいたところ誠に恐縮ですが、委員を継続することが困難となった方におかれましては、後任の方をご推薦いただきたく、次のとおりお願いいたします。

1 推薦の方法

別紙「委員選出表」に必要事項をご記入ください。

2 委員選出表の提出方法等

城山まちづくりセンターを通じて、令和 5 年 5 月 2 日 (火) までにご提出くださるようお願いいたします。

3 その他

第一回検討協議会は、次の日程での開催を予定しております。

【日時】 令和 5 年 5 月 2 日 (月) 午後 7 時から

【会場】 城山総合事務所 第 1 別館 2 階 B 会議室

※開催につきましては、改めて通知にてお知らせいたします。

以 上

相模原市教育委員会教育局学務課

担当 一之瀬、小林

電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 8 2

FAX 0 4 2 - 7 5 8 - 9 0 3 6

(仮称) 城山地区小・中学校の学習環境のあり方検討協議会委員 推薦表

提出日 令和5年 月 日

団体名： _____

代表者職・氏名： _____

連絡先： _____

次のとおり推薦します。

ふりがな	
氏名	
連絡先	(〒 -) 相模原市緑区 日中つながる電話番号 - - メールアドレス
団体における 役職等	
※前任者 氏名	
ふりがな	
氏名	
連絡先	(〒 -) 相模原市緑区 日中つながる電話番号 - - メールアドレス
団体における 役職等	
※前任者 氏名	

※提出いただいた個人情報は、(仮称) 城山地区小・中学校の望ましい学習環境のあり方検討協議会における事務にのみ利用し、それ以外の目的には一切利用しません。
本推薦表は、相模原市教育委員会 学務課 学務班あてに、FAX、郵送、(まちづくりセンターを通じて) 庁内メール等で、お送りいただきますようお願いいたします。

相模原市地域活性化事業交付金制度の概要

1 趣 旨

地域活性化事業交付金とは、幅広い層の市民の参加及び協働による地域の活性化を目指し、市民が自主的な課題解決に取り組む事業に対して交付するものです。

2 対象事業

この交付金は、城山地区の活性化に資すると認められる次の事業に対して交付します。

- ① 地域の防災・防犯に関する事業
- ② 地域の保健・健康づくりの増進に関する事業
- ③ 地域福祉の増進に関する事業
- ④ 産業や観光の振興に関する事業
- ⑤ 環境の保護・保全に関する事業
- ⑥ 青少年の健全育成に関する事業
- ⑦ 地域の文化・伝統の振興に関する事業
- ⑧ 生涯学習に関する事業
- ⑨ 地域及び地域活動の情報発信及び広報に関する事業
- ⑩ 区が推進する重点事業
- ⑪ その他地域のコミュニティづくりを目的とし、区長が特に認める事業

3 優先的な交付対象事業

城山地区において課題となっている事項の解決に資すると認められる事業で、次のような視点を持つ事業については、優先的な交付対象事業として取り扱います。

- 自治会への加入促進
- 地域における公共的な活動の担い手育成
- 公共的な活動への参加者増加
- 地域の公共的な活動団体間の連携強化
- まちづくり会議が提示した地域課題の解決

(注) 次の事業は交付対象となりません。

- 政治活動、宗教活動又は営利活動を目的とする事業
- 交付申請を行う年度において、相模原市が実施する他の補助制度等の対象となる事業
- 政策提案又は講座等の開催を主たる目的とする事業
- 調査、研究を主たる目的とする事業（地域の活性化に資する事業に繋がる計画があるものを除く）
- 第三者への事業促進を求める事業
- 上記に掲げるもののほか、区長が適当でないとする事業

4 申請者の要件

交付金の申請者は、原則として交付金の趣旨に合致する事業を行う5人以上の構成員で組織される団体とします。

5 事業の実施期間

事業の実施期間は、当該年度の4月1日から翌3月末までです。

同一の事業に継続して交付する場合には、3年を限度とします。

6 交付対象経費

交付金の交付対象経費は次のとおりです。

- ① 事業に要する消耗品費、郵便代等の通信費、印刷製本費等
- ② 事業を行う上で必要な食糧費（交付対象者の構成員に対するものを除く）、備品購入費、施設使用料、備品借上料等
- ③ 事業を行う上で必要な施設等の光熱水費等
- ④ 事業を行う上で必要な委託費等
- ⑤ イベント等の開催時に掛ける保険料、警備費等
- ⑥ 講演会等の講師に対する報償費
- ⑦ 研修会の旅費等、研修に要する経費（交付対象者の構成員個人の資質向上に対するものを除く）
- ⑧ その他事業遂行に必要な経費であって区長が必要と認めるもの

7 交付率

交付金の交付率は、対象経費の10分の10以内とします。ただし、備品（物品等で1件1万円を超えるの財産）にかかる経費の交付率は3分の2以内とします。

8 審査

申請事業の審査は、城山まちづくりセンターが審査基準に基づき行います。

審査にあたっては、まちづくり会議の意見を伺います。

【審査基準】

	項目	内容
1	事業目的や内容の公共性	・地域課題の解決や地域の活性化に資する事業か
2	事業内容の妥当性	・事業内容が現実性のあるものか ・事業計画のスキームが適切か ・事業収支が事業を遂行する上で適正か
3	団体の事業実施能力	・事業を実施する能力や主体性があるか
同一の事業で2年目・3年目となるものは上記のほか次の項目も加え、審査します。		
4	事業の継続性や発展性	・事業の継続性や発展性があるか ・これまでの取組みの成果が生かされているか
5	他の団体への影響	・他の団体へ活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業か

9 交付決定

審査結果に基づき、予算の範囲内で交付対象事業及び交付額を決定します。

10 実績報告

事業終了後に、実績報告書を提出していただきます。

また、実施事業の実績については、市の公式ホームページに掲載します。

11 評価の実施

事業終了後に、次年度の交付決定の参考とするため評価を行います。

【評価基準】

項目	内容	評価の視点
公共性	事業目的や内容の公共性	<ul style="list-style-type: none">・解決すべき地域課題(事業目的)は明確だったか。・設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。・第2条第2項(優先的な対象事業)の視点を取り入れた事業であったか。
妥当性	事業内容や支出の妥当性	<ul style="list-style-type: none">・地域課題解決(事業目的達成)のための事業内容は妥当であったか。・支出は明瞭かつ妥当であったか。
継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	<ul style="list-style-type: none">・事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。・事業が主体的に実施されたか。・事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。
波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	<ul style="list-style-type: none">・他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。・地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。
目標設定	目標達成度	<ul style="list-style-type: none">・設定した目標(地域課題の解決)を達成することができたか。
区独自の視点	事業の地域性や独自性	<ul style="list-style-type: none">・区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。・地域特性や地域資源を生かした事業であったか。・事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。

相模原市地域活性化事業交付金交付要綱

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、幅広い層の市民の参加及び協働による地域の活性化を目指し、市民が自主的な課題解決に取り組む事業に対して交付する地域活性化事業交付金(以下「交付金」という。)の交付について、相模原市補助金等に係る予算の執行に関する規則(昭和 4 5 年相模原市規則第 2 3 号。以下「規則」という。)に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。

(対象事業)

第 2 条 交付金は、別表第 1 に掲げる事業で、かつ、相模原市まちづくり区域に関する規則(平成 2 2 年相模原市規則第 1 2 号)に定める区域(以下「地区」という。)を単位に実施される各地区の活性化に資すると認められる事業に対して交付する。

2 前項に規定する事業のうち、次に掲げる視点を持つものについては、優先的な対象事業として取り扱う。

- (1) 自治会への加入促進
- (2) 地域における公共的な活動の担い手育成
- (3) 公共的な活動への参加者増加
- (4) 地域の公共的な活動団体間の連携強化
- (5) まちづくり会議が提示した地域課題の解決

3 第 1 項の規定にかかわらず、次に掲げる事業は、交付対象としない。

- (1) 政治活動、宗教活動又は営利活動を目的とする事業
- (2) 交付申請を行う年度において、相模原市が実施する他の補助制度等の対象となる事業
- (3) 政策提案又は講座等の開催を主たる目的とする事業
- (4) 調査、研究を主たる目的とする事業。ただし、地域の活性化に資する事業に繋がる計画があるものを除く。
- (5) 第三者への事業促進を求める事業
- (6) 前各号に掲げるもののほか、区長が適当でないと認める事業

(対象団体)

第 3 条 交付金の交付を受けることができるものは、交付金の趣旨に合致する事業を行う 5 人以上の構成員で組織される団体とする。ただし、区長が必要と認める場合には、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、次に掲げるものは、交付金の交付を受けることができない。

(1) 相模原市暴力団排除条例(平成23年相模原市条例第31号。以下「条例」という。)第2条第2号に規定する暴力団

(2) 法人のうち、代表者又は役員のうち条例第2条第3号に規定する暴力団員(以下「暴力団員」という。)に該当する者があるもの

(3) 法人格を持たない団体のうち、代表者が暴力団員に該当するもの

3 区長は、必要に応じ、申請者又は第8条の規定により補助金の交付の決定を受けたものが前項各号のいずれかに該当するか否かについて、神奈川県警察本部に対して確認を行うことができる。この場合において、市民等からの通報及び公にされている個人情報を除き、当該確認のために個人情報を神奈川県警察本部に提供するときは、本人の同意を得なければならない。

(対象経費)

第4条 交付金の対象となる経費は、別表第2に掲げる経費とする。

2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる経費は、交付対象としない。

(1) 用地取得費

(2) 前号に掲げるもののほか、区長が適当でないと認める経費

(交付年限)

第5条 同一の事業に継続して交付する場合は、3年を限度とする。

(交付金額等)

第6条 交付金の交付及びその金額は、交付対象となる事業毎に、予算の範囲内でこれを決定し交付する。

2 前条に規定する交付金の交付率は、交付対象経費の10分の10以内とする。

ただし、事業の遂行上必要な物品その他の財産であって金額が1万円を超えるものの交付率については、3分の2以内とする。

3 前項の規定により算出した交付金の額に千円未満の端数があるときは、その端数を切り捨てるものとする。

(交付申請)

第7条 交付金の交付を受けようとする者は、地域活性化事業交付金交付申請書(第1号様式)に次に掲げる書類を添えて、区長に申請しなければならない。

(1) 地域活性化事業計画書

- (2) 収支予算書
- (3) 団体概要調書
- (4) 補助金等概要調書
- (5) 団体構成員名簿

(決定及び通知)

第8条 区長は、前条の申請があったときは、当該申請にかかる地区のまちづくり会議の意見を聴くものとする。ただし、緊急の場合及びやむを得ない事情等があると区長が認める場合は、この限りでない。

2 区長は、前項の規定によるまちづくり会議の意見を踏まえ、別に定める基準に基づき審査を行い、交付金の交付の決定をしたときは、地域活性化事業交付金交付決定通知書(第2号様式)により、不交付の決定をしたときは、地域活性化事業交付金不交付決定通知書(第3号様式)により、申請者に通知するものとする。

(計画変更)

第9条 交付決定を受けた者(以下「交付対象者」という。)が、交付対象事業の計画変更(廃止及び中止を含む。)をする場合は、遅滞なく地域活性化事業交付金変更承認申請書(第4号様式。以下「計画変更承認申請書」という。)を区長に提出しなければならない。

2 区長は、前項の計画変更承認申請書を受理したときは、変更内容を審査し、変更を承認するときは、地域活性化事業交付金変更承認決定通知書(第5号様式)により、承認しないときは、その旨を交付対象者に通知するものとする。

(実績報告)

第10条 交付対象者は、事業の終了後速やかに地域活性化事業交付金実績報告書(第6号様式)に次に掲げる書類を添えて、区長に提出しなければならない。

- (1) 収支決算書
- (2) 補助事業等実績調書
- (3) 対象経費に係る領収書等の写し
- (4) 写真その他事業の実施について確認できる書類

(交付額の確定)

第11条 区長は、前条の地域活性化事業交付金実績報告書の提出があった場合は、その内容を審査し、適正と認めるときは、速やかに交付金の額を決定するものとする。

(交付金の交付)

第12条 交付金は、前条の規定により交付すべき交付金の額を確定した後に支払うものとする。ただし、区長が特に必要があると認めるときは、概算払をすることができる。

2 交付対象者は、前項の規定により交付金の支払を受けようとするときは、地域活性化事業交付金交付請求書(概算払用)(第7号様式)又は地域活性化事業交付金交付請求書(第7号の2様式)を区長に提出しなければならない。

3 交付対象者が第1項の概算払により、交付金の交付を受けた場合には、事業完了後に、地域活性化事業交付金精算書(第8号様式)を提出しなければならない。

(財産の管理及び処分)

第13条 交付対象者は、当該交付事業が完了した後も、交付事業により取得した備品等(以下「財産」という。)を善良な管理者の注意をもって管理するとともに、交付の目的に従って、その効果的な運用を図らなければならない。

2 規則第23条第2号に規定する市長が指定するものは、取得金額が10万円以上の財産とする。

3 規則第23条ただし書に規定する市長が定める期間は、減価償却資産の耐用年数等に関する省令(昭和40年大蔵省令第15号)に定められている期間とする。

4 区長は、交付対象者が規則第23条に違反したときは、交付対象者に対して、当該違反に係る財産の返還を求めることができる。

(事業報告)

第14条 交付対象者は、事業の成果等を広く市民に周知するため、区長から求めがあったときは、区長が開催する報告会において、事業成果の報告を行うものとする。

(事業評価)

第15条 区長は、事業の終了後、別に定める基準に基づき評価を行うものとする。

(要綱の見直し)

第16条 この要綱は、社会情勢、市の財政状況及び事業の実施状況等を鑑み、3年ごとに見直すものとする。

(委任)

第17条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は区長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行し、平成31年度分の交付金の精算から適用する。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、令和2年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この要綱の施行の日から令和4年3月31日までの間においては、改正前の第5条第2項及び第6条第3項に規定する交付金の交付年限の特例に係る規定は、なお効力を有する。

附 則

この要綱は、令和3年1月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和5年4月1日から施行する。

別表第1(第2条関係)

交付対象事業	
1	地域の防災・防犯に関する事業
2	地域の保健・健康づくりの増進に関する事業
3	地域福祉の増進に関する事業
4	産業や観光の振興に関する事業
5	環境の保護・保全に関する事業
6	青少年の健全育成に関する事業
7	地域の文化・伝統の振興に関する事業
8	生涯学習に関する事業
9	地域及び地域活動の情報発信及び広報に関する事業
10	区が推進する重点事業
11	その他地域のコミュニティづくりを目的とし、区長が特に認める事業

別表第2(第4条関係)

交付対象経費	
1	事業に要する消耗品費、郵便代等の通信費、印刷製本費等
2	事業を行う上で必要な食糧費(交付対象者の構成員に対するものを除く。)、備品購入費、施設使用料、備品借上料等
3	事業を行う上で必要な施設等の光熱水費等
4	事業を行う上で必要な委託費等
5	イベント等の開催時に掛ける保険料、警備費等
6	講演会等の講師に対する報償費
7	研修会の旅費等、研修に要する経費(交付対象者の構成員個人の資質向上に対するものを除く。)
8	その他事業遂行に必要な経費であって区長が必要と認めるもの

地域活性化事業交付金申請事業に対する意見のとりまとめ方

1 意見を伺う事業について

今回意見を伺う事業については、予め城山まちづくりセンターにおいて、「相模原市補助金等に係る予算の執行に関する規則」及び「相模原市地域活性化事業交付金交付要綱」に基づき申請書及び添付書類を点検し、同規則及び同要綱に適合した事業であることを確認しております。

委員の皆さんからは、概ね次のような視点から事業に対する意見をいただきます。

- ・地域の活性化に寄与する事業か
- ・地域課題の解決に取り組む事業か
- ・事業内容が地域の特性を生かした事業か
- ・地域で類似する事業が実施されていないか
- ・事業に協力することができるか
- ・事業をより良くするために工夫できることがあるか ……など

2 意見のとりまとめの流れについて

(1) 関係委員の退室

申請事業の関係委員は、当該事業に対して意見を述べるできないので、一時退室していただきます。

(2) 時間配分

1事業あたりの時間配分は、継続事業 15分（説明5分・質疑応答5分、意見のとりまとめ5分）程度、新規事業 25分（説明10分・質疑応答10分、意見のとりまとめ5分）程度を目安としてください。

(3) 意見のとりまとめ方

- ① 事業ごとに申請者から事業の説明を受け、質疑応答を行います。質疑応答が終了した後、申請者の方は退室（関係するまちづくり会議委員も退出）しますので、質問漏れ等がないようご留意ください。
- ② 申請者の方が退室した後、委員の皆さんから事業に対する意見をお伺いします。
- ③ 委員の皆さんから出された意見を、まちづくり会議の意見としてまとめ上げていただきます。例としては次のようなものが考えられます。

- ・関係団体（自治会など）との連携を図りながら事業を進めてください
- ・多くの方が参加できるよう、PRに力を入れて事業を進めてください
- ・事業の結果についても広く周知を図ってください
- ・次年度以降は自主財源で実施していけるようなプランを検討してください ……など

3 とりまとめていただいた意見について

まちづくり会議での意見を踏まえ、城山まちづくりセンターにおいて、地域活性化事業交付金審査基準（裏面参照）に基づき審査を行い、交付金の交付（不交付）決定を行います。

また、まちづくり会議での意見は申請者の方にお伝えする他、市の公式ホームページ（城山地区まちづくり会議「会議結果報告」）に掲載します。

(地域活性化事業交付金交付要綱第8条第2項関係)

地域活性化事業交付金審査基準(1年目)

No.	内容	審査の視点
1	事業目的や内容の公共性	・地域課題の解決や地域の活性化に資する事業か。
2	事業内容の妥当性	・事業内容が現実性のあるものか。 ・事業計画のスキームが適切か。 ・事業収支が事業を遂行する上で適正か。
3	団体の事業実施能力	・事業を実施する能力や主体性があるか。

地域活性化事業交付金審査基準(2年目・3年目)

No.	内容	審査の視点
1	事業目的や内容の公共性	・地域課題の解決や地域の活性化に資する事業か。
2	事業内容の妥当性	・事業内容が現実性のあるものか。 ・事業計画のスキームが適切か。 ・事業収支が事業を遂行する上で適正か。
3	団体の事業実施能力	・事業を実施する能力や主体性があるか。
4	事業の継続性や発展性	・事業の継続性や発展性があるか。 ・これまでの取組みの成果が生かされているか。
5	他の団体への影響	・他の団体へ活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業か。

意見のとりまとめ例

- ・ 段階的に自立、発展、充実が図られるような事業形成をめざしてください。
- ・ 4年目以降も事業が継続できるように自主財源の確保ができる事業計画にしてください。
- ・ 城山地区の多くの住民が参加できるよう城山地区内への広報・PRを強化してください。
- ・ メディアやSNS等を活用し、城山地区のPR・情報発信に取り組んでください。
- ・ 実施にあたっては、関係機関と十分調整・連絡を図ってください。
- ・ 安全面には十分配慮して実施してください。
- ・ 開催時間等、より多くの人に参加しやすい環境を検討してください。

令和5年度 地域活性化事業交付金 申請事業一覧表 【城山地区】

(単位:円)

No.	事業名	団体名	代表者	新規・継続の別	総事業費	申請額
1	しろやま☆おせっかい	城山地区まちづくり会議 高齢者とともに築き支える地域づくり部会	部会長 林 和博	継続2年目	120,000	120,000
2	城山湖ヒルクライムアタック 雌龍籠山ステージ	城山湖ヒルクライム実行委員会	実行委員長 宮崎 秀幸	継続3年目	855,600	350,000
3	みんなの津久井湖夏祭り	みんなの津久井湖夏祭り実行委員会	実行委員長 宮本 諒子	新規	2,341,000	578,000
4						
5						
					3,316,600	1,048,000

令和5年度 地域活性化事業交付金 申請事業概要シート

事業名	しろやま☆おせっかい		継続2年目
申請者	城山地区まちづくり会議 高齢者とともに築き支える地域づくり部会		部会長 林 和博
総事業費	120,000	交付金申請額	120,000
事業実施の背景や地域の現状と課題	城山地区では、高齢者サロンや健康体操など、地域における交流活動が活発に展開されている。しかしながら、生活様式や個人の価値観の多様化などにより、自治会、シニアクラブ、その他さまざまな交流活動の場など地域社会との直接的な関わりを持たない高齢者も増加していると感じている。そうした中、地域社会との積極的な関わりを望まない人に対しては、誰かと繋がっているという安心感が得られるようなゆるやかな見守りの仕組みが必要であると感じ、令和2年度に「みんなで気づかいあうまち・城山」そんな“おせっかい風土”を広めようと考え、異変に気付くためのポイントを示したチラシ「しろやま☆おせっかい」を民生委員児童委員協議会の協力により城山地区内各戸に配付した。		
事業の目的	城山地区内の住民が少しだけおせっかいになり、周囲への直接的な声かけのほか、目配せや気配りによる間接的な見守りの意識を醸成し、地域全体に浸透させ、誰も取り残されない、取り残さない”しろやま☆SDGs”の街を形成するため、今回は城山地区の住民の方々と実際に地区内を回り、まちのいろいろな表情（風景）をながめながら、周囲への声かけと併せて、声かけによらない目配せ・気配りによる異変の有無の確認などを通じて“おせっかい風土”をさらに広め根づかせる。		
事業内容	令和2年度に城山地区内の住民が少しだけおせっかいになり、周囲への目配せや気配りによる間接的な見守りの意識を醸成し、地域全体に浸透させるためのPR用チラシ等を作成し、地区内全世帯への配付を行った。今回は、“おせっかい風土”をさらに広め根づかせるため、城山地区の住民（在学・在勤を含む）から参加者を募り、実際に地区内を回って、まちのいろいろな表情（風景）をながめながら、周囲への何気ない声かけと併せて、声かけによらない目配せや気配りを行う「まちかどウォッチング」を実施し、参加者への「おせっかいバッチ」の配付を通じて取組の連帯意識の向上を図る。 また、「まちかどウォッチング」実施後には、地域情報紙や区ホームページなどで活動報告を行い、「しろやま☆おせっかい」の活動を広め根づかせていく。		
事業スケジュール	4～6月 まちかどウォッチング実施方法の検討 参加者募集チラシ配付方法の検討 参加者募集チラシ（案）検討・作成 6月 参加者募集のチラシ配付 7月 まちかどウォッチング（第1回） 川尻小学校区 （予定） 8月 参加者募集のチラシ配付 9月 まちかどウォッチング（第2回） 広田小学校区 （予定） 11月 参加者募集のチラシ配付 12月 まちかどウォッチング（第3回） 湘南小学校区 （予定） 12月 参加者募集のチラシ配付 1月 まちかどウォッチング（第4回） 広陵小学校区 （予定） その都度地域情報紙などで活動報告を行う		
次年度以降の事業計画及び事業展望	・次年度以降も引き続き城山地区の住民が少しだけおせっかいになるように、関係団体との連携を図り、地区内への意識の浸透を図る。 ・取組の継続を担保すべく、将来の取組体制について検討を行う。 ・今年度の取組を踏まえ、PDCAサイクルに基づき検証を行い、新たな取組の必要性について検討を行う。 ※PDCA：Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）のサイクル		
交付金の対象事業	地域福祉の増進に関する事業（要綱第2条第1項別表第1－3該当）		
重点項目	まちづくり会議が提示した地域課題の解決（要綱第2条第2項第5号該当）		

収入の部			支出の部		
費目	金額	説明	費目	金額	説明
市交付金	120,000		消耗品費	65,000	缶バッジ材料、手旗、ベスト、事務用品等
			印刷製本費	35,000	チラシ作成
			食糧費	20,000	参加者飲み物
合計	120,000		合計	120,000	

地域活性化事業計画書

○申請者

団体名

城山地区まちづくり会議 高齢者とともに築き支える地域づくり部会

代表者の役職及び氏名

部会長 林 和 博

代表者の住所又は所在地

相模原市緑区久保沢1-3-1

担当者連絡先 事務局：城山まちづくりセンター Tel：042-783-8117

(氏名、電話番号、FAX番号、電子メール)

○事業名 (事業の名称を記載してください。)

しろやま☆おせっかい～まちかどウォッチングでゆるやかな見守りを～

○事業実施の背景や地域の現状と課題 (地域で困っていることや活性化が必要なことなど、事業を実施することとなった背景事情を記述してください。)

城山地区では、高齢者サロンや健康体操など、地域における交流活動が活発に展開されている。しかしながら、生活様式や個人の価値観の多様化などにより、自治会、シニアクラブ、その他さまざまな交流活動の場など地域社会との直接的な関わりを持たない高齢者も増加していると感じている。そうした中、地域社会との積極的な関わりを望まない人に対しては、誰かと繋がっているという安心感が得られるようなゆるやかな見守りの仕組みが必要であると感じ、令和2年度に「みんなで気づかいあうまち・城山」そんな“おせっかい風土”を広めようと考え、異変に気付くためのポイントを示したチラシ「しろやま☆おせっかい」を民生委員児童委員協議会の協力により城山地区内各戸に配付した。

○事業の目的 (事業の実施により達成しようとする目的を記述してください。)

城山地区内の住民が少しだけおせっかいになり、周囲への直接的な声かけのほか、目配せや気配りによる間接的な見守りの意識を醸成し、地域全体に浸透させ、誰も取り残されない、取り残さない”しろやま☆SDGs”の街を形成するため、今回は城山地区の住民の方々と一緒に実際に地区内を回り、まちのいろいろな表情(風景)をながめながら、周囲への声かけと併せて、声かけによらない目配せ・気配りによる異変の有無の確認などを通じて“おせっかい風土”をさらに広め根づかせる。

○事業内容 (当該事業の具体的な内容を記述してください。)

令和2年度に城山地区内の住民が少しだけおせっかいになり、周囲への目配せや気配りによる間接的な見守りの意識を醸成し、地域全体に浸透させるためのPR用チラシ等を作成し、地区内全世帯への配付を行った。今回は、“おせっかい風土”をさらに広め根づかせるため、城山地区の住民(在学・在勤を含む)から参加者を募り、実際に地区内を回って、まちのいろいろな表情(風景)をながめながら、周囲への何気ない声かけと併せて、声かけによらない目配せや気配りを行う「まちかどウォッチング」を実施し、参加者への「おせっかいバッチ」の配付を通じて取組の連帯意識の向上を図る。

また、「まちかどウォッチング」実施後には、地域情報紙や区ホームページなどで活動報告を行い、「しろやま☆おせっかい」の活動を広め根づかせていく。

○事業スケジュール（実施の時期と内容を記入してください。）

実施時期	実施内容	備考
4～6月	まちかどウォッチング実施方法の検討 参加者募集チラシ配付方法の検討 参加者募集チラシ（案）検討・作成	
6月	参加者募集のチラシ配付	
7月	まちかどウォッチング（第1回） 川尻小学校区 （予定）	
8月	参加者募集のチラシ配付	
9月	まちかどウォッチング（第2回） 広田小学校区 （予定）	
11月	参加者募集のチラシ配付	
12月	まちかどウォッチング（第3回） 湘南小学校区 （予定）	
12月	参加者募集のチラシ配付	
1月	まちかどウォッチング（第4回） 広陵小学校区 （予定）	
	その都度地域情報紙などで活動報告を行う	

○次年度以降の事業計画及び事業展望（次年度以降の事業計画、事業の拡大、他の地域や他団体への広がりなどを記述してください。）

- ・次年度以降も引き続き城山地区の住民が少しだけおせっかいになるように、関係団体との連携を図り、地区内への意識の浸透を図る。
- ・取組の継続を担保すべく、将来の取組体制について検討を行う。
- ・今年度の取組を踏まえ、PDCA サイクルに基づき検証を行い、新たな取組の必要性について検討を行う。

※PDCA：Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）のサイクル

○総事業費

・予算総額： 120,000円 ・（内交付金申請見込額）： 120,000円

○事業実施の背景や地域の現状と課題をどのように捉えたか（当該事業の実施が必要な状況の発生源にチェックしてください。複数回答可能。）

- 自己認識（自分でそう感じている）
- 話合い（地域の複数人がそう感じている。）
- 調査（アンケート調査や聞き取り調査を行った。）
- 先進事例（他地域や他市町村等で取り組まれている。）
- 社会的課題（ニュースや新聞等で話題になっている。）
- その他（内容： ）

検討経過や調査、研究の内容、先進事例などの具体的内容：

○交付金の対象事業（交付金の対象となる事業のうち、どの項目に該当すると考えているかチェックしてください。）

■地域の防災・防犯に関する事業

□地域の保健・健康づくりの増進に関する事業

■地域福祉の増進に関する事業

□産業や観光の振興に関する事業

□環境の保護・保全に関する事業

□青少年の健全育成に関する事業

□地域の文化・伝統の振興に関する事業

□生涯学習に関する事業

□地域及び地域活動の情報発信及び広報に関する事業

□区が推進する重点事業

□その他地域のコミュニティづくりを目的とし、区長が特に認める事業

○事業の状況（新規事業か既存事業のリニューアルかチェックしてください。）

■新規

□既存

□既存事業の拡大

過去の地域活性化事業交付金の交付状況：■有（交付年度 令和2年度）・□無

他の市の補助制度の交付状況：□有（交付年度 年）・■無

○重点項目（当該事業が要綱の優先的な対象事業に該当する場合は、その項目にチェックし、具体的な内容を記述してください。）

□自治会加入促進

具体的内容：

□地域における公共的な活動の担い手育成

具体的内容：

□公共的な活動への参加者増加

具体的内容：

□地域の公共的な活動団体間の連携強化

具体的内容：

■まちづくり会議が提示した地域課題の解決

具体的内容：

平成30年度から城山地区まちづくり会議において、地域と繋がりのない高齢者が孤立しない仕組みについて検討が行われ、令和2年度には、「みんなで気づかいあうまち・城山」そんな“おせっかい風土”を広めようと考え、異変に気付くためのポイントを示したチラシ「しろやま☆おせっかい」を民生委員児童委員協議会の協力により城山地区内各戸に配付した。

○事業実施及び結果の情報発信方法（該当する項目にチェックしてください。複数回答可能。）

■地域情報紙 □団体の会報など □団体のホームページ □新聞等への情報提供

■その他（自治会回覧等）

○その他（事業の実施体制や役割分担、事業実施上の課題などがあれば、記入してください。）

令和5年度 収支予算書

1 収入の部

科 目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増 減 (A) - (B)	説 明
市交付金	120,000円	0円	120,000円	
収入合計	120,000円	0円	120,000円	

2 支出の部

科 目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増 減 (A) - (B)	説 明
一般経費	120,000円	0円	120,000円	
消耗品費	65,000円	0円	65,000円	事務用品等 10,000円 缶バッチ材料 (700個分) 25,000円 手旗 (10個) 10,000円 ベスト 20,000円
印刷製本費	35,000円	0円	35,000円	チラシ作成 (15,000部) 35,000円
食糧費	20,000円	0円	20,000円	参加者飲み物
特別経費				
支出合計	120,000円	0円	120,000円	

※特別経費：交付対象経費のうち1万円を超える財産を購入する場合は、この欄に記入

令和5年度 地域活性化事業交付金 申請事業概要シート

資料 4 - 7

事業名	城山湖ヒルクライムアタック 雌龍籠山ステージ		継続3年目
申請者	城山湖ヒルクライム実行委員会 実行委員長 宮寄 秀幸		
総事業費	855,600	交付金申請額	350,000
事業実施の背景や地域の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・城山地区が東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会自転車ロードレース競技のコースとなったことから、城山地区の地域資源を活用した事業を実施することで城山地区の魅力発信、城山地区のシビックプライドの醸成に繋げていく必要がある。 ・大会後のレガシーとして、ツアー・オブ・ジャパン相模原ステージと共にシティプロモーションの推進、シビックプライドの醸成等に繋げる。 ・自転車（ロードレース）における名所として、城山地区の魅力発信と知名度の向上を図る。 		
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・参加選手は練習に訪れたりするため、通年の訪問者を増やし、城山地区の魅力の発信と知名度向上に繋げる。 ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会自転車ロードレース競技の大会後のレガシーとして、自転車ロードレース競技の普及及び城山地区の魅力発信と知名度向上を図る。 ・市民が主体となって「城山地区のために!!」をスローガンとして地域内住民の連携強化を図る。 ・スタッフも楽しめるイベントとし、地域連携、事業参加の楽しさや重要性を市民に体感していただく。 		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・国道413号都井沢交差点上の市道松風都井沢のうち、全長2kmのコース設定を行い、自転車の登坂タイムを競うレースを実施する。短距離競技は攻略の難易度が高く、参加者が飽きずに毎年挑めるものとなります。 ・前回の結果を踏まえ、課題であるスタート地点の音響やアナウンス、スタート方法を充実させ、待機選手の気分高揚を図る。 ・発電所敷地内は路面、見通し共に良好なため、競技中選手、待機選手、市民が一体となった盛り上がりを見せるゾーンとなるよう工夫をする。 		
事業スケジュール	6月 実行委員会事前準備会議 7月 実行委員会会議 募集開始 8月 実行委員会会議 9月 実行委員会会議 10月 実行委員会会議 ボランティアスタッフ会議 11月 事業実施 1月 実行委員会会議		
次年度以降の事業計画及び事業展望	次年度以降は、第4回、第5回と事業拡大を継続し、コロナ禍制限解除によるイベント需要に一役を担えるように、ロードバイクにより、城山地区を訪れてくれるような自転車ツーリズムの普及を図る。 城山地区の魅力発見・認識の機会は、大会当日よりも繰り返し訪れる機会となる練習にあるが、現状、飲料の自動販売機が2台あるだけで、「自然を感じる」以外に楽しめるものがない状況です。本事業は、今まで訪れなかった年齢層の訪問のきっかけとなるチャンネルを一つ創設し、継続しているにすぎないため、将来的には、より多くの団体や地域との連携を進め、新たな魅力の発掘等について、ブラッシュアップを図っていきたい。		
交付金の対象事業	地域及び地域活動の情報発信及び広報に関する事業（要綱第2条第1項別表第1-9該当）		
重点項目	地域の公共的な活動団体間の連携強化（要綱第2条第2項第4号該当）		

収入の部			支出の部		
費目	金額	説明	費目	金額	説明
市交付金	350,000		報償費	70,000	医師、テント、司会
参加者負担金	480,000	4,000円×120名	消耗品費	122,800	副賞、登録証、 発電機等燃料費、 ゼッケン用シート、 看板用紙、インク代、 その他消耗品等
団体負担金	25,600		食料費	116,000	賄い材料代、弁当代
			印刷製本費	25,000	チラシ・ポスター作成代
			通信費	17,000	郵便料、宅急便代
			保険料	25,000	
			手数料	7,000	振込手数料、証紙代
			委託料	262,800	警備委託、スポーツエ ントリー、救急救命士
			備品借上料	90,000	簡易トイレ、 運搬レンタカー等
			備品購入費	120,000	モニタースタンド、 バックパネル、幕
合計	855,600		合計	855,600	

地域活性化事業計画書

○申請者

団体名

城山湖ヒルクライム実行委員会

代表者の役職及び氏名

実行委員長 宮崎 秀幸

代表者の住所又は所在地

相模原市緑区

担当者連絡先

(氏名、電話番号、FAX番号、電子メール)

○事業名 (事業の名称を記載してください。)

城山湖ヒルクライムアタック雌龍籠山ステージ

○事業実施の背景や地域の現状と課題 (地域で困っていることや活性化が必要なことなど、事業を実施することとなった背景事情を記述してください。)

- ・城山地区が東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会自転車ロードレース競技のコースとなったことから、城山地区の地域資源を活用した事業を実施することで城山地区の魅力発信、城山地区のシビックプライドの醸成に繋げていく必要がある。
- ・大会後のレガシーとして、ツアー・オブ・ジャパン相模原ステージと共にシティプロモーションの推進、シビックプライドの醸成等に繋げる。
- ・自転車 (ロードレース) における名所として、城山地区の魅力発信と知名度の向上を図る。

○事業の目的 (事業の実施により達成しようとする目的を記述してください。)

- ・参加選手は練習に訪れたりするため、通年の訪問者を増やし、城山地区の魅力の発信と知名度向上に繋げる。
- ・東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会自転車ロードレース競技の大会後のレガシーとして、自転車ロードレース競技の普及及び城山地区の魅力発信と知名度向上を図る。
- ・市民が主体となって「城山地区のために!!」をスローガンとして地域内住民の連携強化を図る。
- ・スタッフも楽しめるイベントとし、地域連携、事業参加の楽しさや重要性を市民に体感していただく。

○事業内容 (当該事業の具体的な内容を記述してください。)

- ・国道 413 号線都井沢交差点上の松風都井沢線のうち、全長 2 km のコース設定を行い、自転車の登坂タイムを競うレースを実施する。短距離競技は攻略の難易度が高く、参加者が飽きずに毎年挑めるものとなります。
- ・前回の結果を踏まえ、課題であるスタート地点の音響やアナウンス、スタート方法を充実させ、待機選手の気分高揚を図る。
- ・発電所敷地内は路面、見通し共に良好なため、競技中選手、待機選手、市民が一体となった盛り上がりを見せるゾーンとなるよう工夫をする。

○事業スケジュール（実施の時期と内容を記入してください。）

実施時期	実施内容	備考
6月	実行委員会事前準備会議	
7月	実行委員会会議 募集開始	
8月	実行委員会会議	
9月	実行委員会会議	
10月	実行委員会会議・ボランティアスタッフ会議	
11月	事業実施	
1月	実行委員会会議	

○次年度以降の事業計画及び事業展望（次年度以降の事業計画、事業の拡大、他の地域や他団体への広がりなどを記述してください。）

次年度以降は、第5回、第6回と事業拡大を継続し、コロナ禍制限解除によるイベント需要に一役を担えるように、ロードバイクにより、城山地区を訪れてくれるような自転車ツーリズムの普及を図る。

城山地区の魅力発見・認識の機会は、大会当日よりも繰り返し訪れる機会となる練習にあるが、現状、飲料の自動販売機が2台あるだけで、「自然を感じる」以外に楽しめるものがない状況です。本事業は、今まで訪れなかった年齢層の訪問のきっかけとなるチャンネルを一つ創設し、継続しているにすぎないため、将来的には、より多くの団体や地域との連携を進め、新たな魅力の発掘等について、ブラッシュアップを図っていききたい。

○総事業費

・予算総額： 855,600円 ・(内交付金申請見込額)： 350,000円

○事業実施の背景や地域の現状と課題をどのように捉えたか（当該事業の実施が必要な状況の発生源にチェックしてください。複数回答可能。）

- 自己認識（自分でそう感じている）
- 話合い（地域の複数人がそう感じている。）
- 調査（アンケート調査や聞き取り調査を行った。）
- 先進事例（他地域や他市町村等で取り組まれている。）
- 社会的課題（ ）
- その他（ ）

検討経過や調査、研究の内容、先進事例などの具体的内容：

○**交付金の対象事業**（交付金の対象となる事業のうち、どの項目に該当すると考えているかチェックしてください。）

地域の防災・防犯に関する事業

地域の保健・健康づくりの増進に関する事業

地域福祉の増進に関する事業

産業や観光の振興に関する事業

環境の保護・保全に関する事業

青少年の健全育成に関する事業

地域の文化・伝統の振興に関する事業

生涯学習に関する事業

地域及び地域活動の情報発信及び広報に関する事業

区が推進する重点事業

その他地域のコミュニティづくりを目的とし、区長が特に認める事業

○**事業の状況**（新規事業か既存事業のリニューアルかチェックしてください。）

新規

既存

既存事業の拡大

過去の地域活性化事業交付金の交付状況：有（交付年度 令和元年）・無

他の市の補助制度の交付状況：有（交付年度 年）・無

○**重点項目**（当該事業が要綱の優先的な対象事業に該当する場合は、その項目にチェックし、具体的な内容を記述してください。）

自治会加入促進

具体的内容：

地域における公共的な活動の担い手育成

具体的内容：

公共的な活動への参加者増加

具体的内容：

地域の公共的な活動団体間の連携強化

具体的内容：城山商工会青年部、城山観光協会、自治会、交通安全協会、一般市民（ボランティア）等多くの団体・個人の協力を得ながら、地域の一体感を醸成し、新たな公共的活動の担い手育成を図る。

まちづくり会議が提示した地域課題の解決

具体的内容：

○事業実施及び結果の情報発信方法（該当する項目にチェックしてください。複数回答可能。）

地域情報紙 団体の会報など 団体（関係団体）のホームページ 新聞等への情報提供
その他（オリジナルチラシ、ポスター、SNS）

○その他（事業の実施体制や役割分担、事業実施上の課題などがあれば、記入してください。）

道路の使用許可及び安全管理の確保が課題であるが、地元警察と協力を図りながら警備員等を増やすなどして対応を図る。

参加者の増加も課題ではあるが、新聞等マスコミ等への早い段階から情報提供を行い、PRを強化することで対応を図る。

令和5年度 収支予算書

(単位：円)

1 収入の部

科 目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増減 (A) - (B)	説明
市交付金	350,000	815,000	△ 465,000	
参加者負担金	480,000	400,000	80,000	4,000円×120名
団体負担金(協賛金)	25,600	30,000	△ 4,400	
収入合計	855,600	1,245,000	△ 389,400	

(単位：円)

2 支出の部

科 目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増減 (A) - (B)	説明
一般経費	735,600	862,000	△ 126,400	
報償費	70,000	60,000	10,000	医師、テント、司会
消耗品費	122,800	304,000	△ 181,200	副賞 10,800円 発電機等燃料費 5,000円 記録証 7,000円 ゼッケン用シート 8,000円 看板用紙、インク代、その他 22,000円 その他消耗品 40,000円 雑費30,000円
食料費	116,000	146,000	△ 30,000	参加者賄い材料代 35,000円 ボランティアスタッフ用弁当代等 70,000円 実行委員弁当代等 11,000円
印刷製本費	25,000	30,000	△ 5,000	チラシ・ポスター作成代 25,000
通信費	17,000	32,000	△ 15,000	郵便料、宅急便代
保険料	25,000	20,000	5,000	
手数料	7,000	10,000	△ 3,000	振込手数料、証紙代
委託料	262,800	220,000	42,800	警備委託 165,000円、スポーツエントリー 67,000円、救急救命士30,800円
備品借上料	90,000	40,000	50,000	簡易トイレ 80,000円 運搬レンタカー等 10,000円
			0	
特別経費	120,000	383,000	△ 263,000	
備品購入費	120,000	383,000	△ 263,000	モニタースタンド 50,000円 バックパネル+幕 70,000円
支出合計	855,600	1,245,000	△ 389,400	

※特別経費：交付対象経費のうち1万円以上の財産を購入する場合は、この欄に記入

団 体 概 要 調 査

○団体の名称

城山湖ヒルクライム実行委員会

○団体所在地、電話（団体としての所在地が無い場合は、代表者の住所、電話を記入）

所在地 相模原市緑区

電 話

○代表者の役職名及び氏名

城山湖ヒルクライム実行委員会 実行委員長 宮寄 秀幸

○団体のHP

<https://www.facebook.com/shiroyamako.hillclimb.a/>

○団体の目的

自転車競技、自転車ツーリズムの普及

○設立年月

（活動開始年月）

平成30年9月

○会員数

12名

○主な活動分野

① 保健・医療・福祉

② 社会教育

③ まちづくり

④ 観光

⑤ 農山漁村又は中山間地域の振興

⑥ 学術・文化・芸術・スポーツ

⑦ 環境保全

⑧ 災害救助

⑨ 地域安全

⑩ 人権・平和

⑪ 国際協力

⑫ 男女共同参画

⑬ 子どもの健全育成

⑭ 情報化社会

⑮ 科学技術

⑯ 経済活動

⑰ 職業能力開発・雇用機会

⑱ 消費者保護

⑲ 非営利活動支援

⑳ その他（ ）

○主な活動場所

城山湖周辺

○主な活動内容

相模原市緑区城山の自然環境を生かした自転車競技、自転車ツーリズムの普及・啓発に関すること

会則、規約等：なし

※会則、規約等がある場合には、添付をお願いします。

令和5年度 地域活性化事業交付金 申請事業概要シート

事業名	みんなの津久井湖夏祭り		新規
申請者	みんなの津久井湖夏祭り実行委員会 実行委員長 宮本 諒子		
総事業費	2,341,000	交付金申請額	578,000
事業実施の背景や地域の現状と課題	<p>①津久井湖城山公園（水の苑地）は城山地区の中で代表する風光明媚な観光スポットであるが、地区外の方の知名度が低く、津久井湖城山公園（花の苑地）に比べ観光施設が無いことや、イベントも少ないことから観光客が少ない。このことから水の苑地を活用したイベントを実施することにより、地域の魅力を発信し、知名度の向上を図り、地域の活性化につなげていく。</p> <p>②城山地区では各地域において様々なイベントが開催され、多くの地域においてスタッフの高齢化が進み、イベントの縮小や廃止がおきていることから、若手のリーダーや地域における公共的な活動の担い手の育成が必要である。</p> <p>③昨年第1回みんなの津久井湖夏祭りを実施したが、計画の3倍以上の来場者があり、駐車場と警備体制の不足から公共交通機関の渋滞を招いてしまった。この反省から、駐車場の確保や交通警備員の増強を図り、安全かつスムーズな交通処理を行い、参加者に安心して楽しんでいただけるようなイベントに造成する必要がある。</p>		
事業の目的	<p>①第1回の時に遠方からのサイクリストで、イベントに参加された方から城山にはこんな素晴らしい所が有るんだ、仲間にも紹介しよう、と言う方がおられました。イベントを通じて津久井湖（水の苑地）、そして広く城山地区の魅力と伝統文化を知っていただく。</p> <p>②このイベントは若者が中心になって、広くボランティアを募り市民参加型のイベントを目的としている。（実行委員長が女性で30代、副実行委員長は20代男性等、多くの実行委員は若手となっている。）また大学生や高校生のボランティアも多い。本イベントを通じて若手スタッフが育ち、地域における公共的な活動の担い手となって活動することを目指す。</p> <p>③前はキッチンカーによる出店が中心であったが、今回はテントを用意し地元の飲食店に優先的に出店していただき、地域の経済活動の活性化の一助となることを目指す。</p>		
事業内容	<p>(1) 伝統芸能披露（お囃子の演奏等）</p> <p>(2) キッチンカーやテントでの軽食及び雑貨等の販売</p> <p>(3) ステージでのパフォーマンス</p> <p>(4) 竹灯ろうによるライトアップ</p> <p>(5) 参加型フォトブースの設置</p> <p>(6) 花火</p> <p>(7) 環境美化活動（ゴミ拾い）翌日実施</p>		
事業スケジュール	<p>2月8日 みんなの津久井湖夏祭り準備委員会開催（開催の有無決定）</p> <p>3月8日 第1回実行委員会（実行委員会組織、役割分担、日程の検討）</p> <p>4月5日 第2回実行委員会（事業内容、役割担当班報告、後援者・協賛者挨拶）</p> <p>5月 第3回実行委員会（予算、役割担当班報告と全体討議）</p> <p>6月 第4回実行委員会（役割担当班報告と全体討議）</p> <p>7月 第5回実行委員会（役割担当班報告と全体討議）</p> <p>8月 出演者及びボランティアへの事前説明会</p> <p>8月 第6回実行委員会（事業の最終確認）</p> <p>8月11日 みんなの津久井湖夏祭り開催（15：00～20：00）</p> <p>日 みんなでゴミ拾い（9：00～10：30）</p>		
次年度以降の事業計画及び事業展望	<p>①事業計画…津久井湖水の苑地の一層の魅力発信 地元出店者の拡大、実行委員会やボランティアへの一層の若手採用（次世代の地元の活動の担い手づくり）、新しい形で手作り感のあるイベントへの造成。</p> <p>②事業の拡大…第1回はコロナ禍での開催であったため規模を縮小した内容、今回の第2回はwithコロナ禍での通常の形でのイベント開催、第3回以降はコロナ終息後の規模を拡大したイベント開催。具体的には、開催時間の拡大、開催内容の充実、出店数の拡大（特に城山地区を優先）、広く関係団体との連携。この種のイベントとして緑区1を目指す。</p> <p>③他の地域や他団体への広がり…第1回は時間的制限から共催、後援の数が少なかったが、実施実績から関係諸機関から後援の依頼が来ている。行政も含め、幅広く地域や他団体そして地域の企業との連携を強化し、地域を挙げてのイベントに造成する。</p>		
交付金の対象事業	産業や観光の振興に関する事業（要綱第2条第1項別表第1－4該当）		
重点項目	地域における公共的な活動の担い手育成（要綱第2条第2項第2号該当）		

収入の部			支出の部		
費目	金額	説明	費目	金額	説明
市交付金	578,000		報償費	80,000	出演者謝礼、 備品借用謝礼
協賛金	1,500,000		消耗品費	286,000	発電機・トラック燃料 費、 フォトブース、灯ろう、 Tシャツ、事務消耗品、 イベント消耗品
雑収入	260,000	出店料、 実行委員会売店売上、 フリーマーケット出店料	手数料	10,000	ゴミ焼却費
繰越金	3,000		使用料	20,000	公園利用費、駐車場借用
			食料費	92,000	ボランティアスタッフ 弁当・お茶代
			委託費	1,340,000	会場警備委託、花火
			印刷製本費	90,000	チラシ・ポスター作製費 デザイン費
			保険料	50,000	保険料
			広告費	50,000	タウンニュース等
			備品借上料	273,000	テント借上料、音響設 備、
			備品購入費	50,000	オリジナル提灯
合計	2,341,000		合計	2,341,000	

地域活性化事業計画書

○申請者

団体名

みんなの津久井湖夏祭り実行委員会

代表者の役職及び氏名

実行委員長 宮本諒子

代表者の住所又は所在地

相模原市緑区

担当者連絡先

(氏名、電話番号、FAX番号、電子メール)

名称：みんなの津久井湖夏祭り実行委員会事務局

住所：相模原市緑区

連絡先：宮本諒子

○事業名 (事業の名称を記載してください。)

みんなの津久井湖夏祭り

○事業実施の背景や地域の現状と課題 (地域で困っていることや活性化が必要なことなど、事業を実施することとなった背景事情を記述してください。)

- ①津久井湖城山公園 (水の苑地) は城山地区の中で代表する風光明媚な観光スポットであるが、地区外の方の知名度が低く、津久井湖城山公園 (花の苑地) に比べ観光施設が無いことや、イベントも少ないことから観光客が少ない。このことから水の苑地を活用したイベントを実施することにより、地域の魅力を発信し、知名度の向上を図り、地域の活性化につなげていく。
- ②城山地区では各地域において様々なイベントが開催され、多くの地域においてスタッフの高齢化が進み、イベントの縮小や廃止がおきていることから、若手のリーダーや地域における公共的な活動の担い手の育成が必要である。
- ③昨年第1回みんなの津久井湖夏祭りを実施したが、計画の3倍以上の来場者があり、駐車場と警備体制の不足から公共交通機関の渋滞を招いてしまった。この反省から、駐車場の確保や交通警備員の増強を図り、安全かつスムーズな交通処理を行い、参加者に安心して楽しんでいただけるようなイベントに造成する必要がある。

○事業の目的 (事業の実施により達成しようとする目的を記述してください。)

- ①第1回の時に遠方からのサイクリストで、イベントに参加された方から城山にはこんな素晴らしい所があるんだ、仲間にも紹介しよう、と言う方がおられました。イベントを通じて津久井湖 (水の苑地)、そして広く城山地区の魅力と伝統文化を知っていただく。
- ②このイベントは若者が中心になって、広くボランティアを募り市民参加型のイベントを目的としている。(実行委員長が女性で30代、副実行委員長は20代男性等、多くの実行委員は若手となっている。) また大学生や高校生のボランティアも多い。本イベントを通じて若手スタッフが育ち、地域における公共的な活動の担い手となって活動することを目指す。
- ③前回はキッチンカーによる出店が中心であったが、今回はテントを用意し地元の飲食店に優先的に出店していただき、地域の経済活動の活性化の一助となることを目指す。

○事業内容（当該事業の具体的な内容を記述してください。）

- (1) 伝統芸能披露（お囃子の演奏等）
- (2) キッチンカーやテントでの軽食及び雑貨等の販売
- (3) ステージでのパフォーマンス
- (4) 竹灯ろうによるライトアップ
- (5) 参加型フォトブースの設置
- (6) 花火
- (7) 環境美化活動（ゴミ拾い）翌日実施

○事業スケジュール（実施の時期と内容を記入してください。）

実施時期	実施内容	備考
2月8日	みんなの津久井湖夏祭り準備委員会開催（開催の有無決定）	
3月8日	第1回実行委員会（実行委員会組織、役割分担、日程の検討）	
4月5日	第2回実行委員会（事業内容、役割担当班報告、後援者・協賛者挨拶）	
5月	第3回実行委員会（予算、役割担当班報告と全体討議）	
6月	第4回実行委員会（役割担当班報告と全体討議）	
7月	第5回実行委員会（役割担当班報告と全体討議）	
8月	出演者及びボランティアへの事前説明会	
8月	第6回実行委員会（事業の最終確認）	
8月11日	みんなの津久井湖夏祭り開催（15：00～20：00）	雨天の場合は12日
8月12日	みんなでゴミ拾い（9：00～10：30）	雨天の場合は13日

○次年度以降の事業計画及び事業展望（次年度以降の事業計画、事業の拡大、他の地域や他団体への広がりなどを記述してください。）

- ①事業計画…津久井湖水の苑地の一層の魅力発信 地元出店者の拡大、実行委員会やボランティアへの一層の若手採用（次世代の地元の活動の担い手づくり）、新しい形で手作り感のあるイベントへの造成。
- ②事業の拡大…第1回はコロナ禍での開催であったため規模を縮小した内容、今回の第2回はwithコロナ禍での通常の形でのイベント開催、第3回以降はコロナ終息後の規模を拡大したイベント開催。具体的には、開催時間の拡大、開催内容の充実、出店数の拡大（特に城山地区を優先）、広く関係団体との連携。この種のイベントとして緑区1を目指す。
- ③他の地域や他団体への広がり…第1回は時間的制限から共催、後援の数が少なかったが、実施実績から関係諸機関から後援の依頼が来ている。行政も含め、幅広く地域や他団体そして地域の企業との連携を強化し、地域を挙げてのイベントに造成する。

○総事業費

・予算総額： 2,341,000円 ・(内交付金申請見込額)： 578,000円

○重点項目（当該事業が要綱の優先的な対象事業に該当する場合は、その項目にチェックし、具体的な内容を記述してください。）

自治会加入促進

具体的内容：

■地域における公共的な活動の担い手育成

具体的内容：

○若手や女性を多くリーダーとして採用

実行委員長（女性 33 歳、副実行委員長（女性 35 歳、男性 45 歳、男性 27 歳）

■公共的な活動への参加者増加

具体的内容：

○昨年度は当日のボランティアが 50 名、今年度は 80 名程度を考えている。

地域の公共的な活動団体間の連携強化

具体的内容：

○昨年度は後援団体 7 団体、今年度は 10 団体程度の予定。

■まちづくり会議が提示した地域課題の解決

具体的内容：

○事業実施及び結果の情報発信方法（該当する項目にチェックしてください。複数回答可能。）

■地域情報紙 団体の会報など ■団体のホームページ ■新聞等への情報提供

■その他（昨年は城山と津久井地区の小学校を通じてチラシを配布）

○その他（事業の実施体制や役割分担、事業実施上の課題などがあれば、記入してください。）

1. 役割分担

1) 役割分担は 10 の担当に分けて実施する。

①総務班・本部 ②救護班 ③広報・放送班 ④設営班 ⑤出店班 ⑥駐車場班

⑦会場警備・ゴミ班 ⑧ステージ・イベント班 ⑨花火班 ⑩ボランティア班

2) 各班はリーダー、サブリーダー、メンバーをもって構成する。

2. 事業実施上の課題

1) 駐車場の確保と交通整理には人をかけ、安全を確保する。

2) 花火の打ち上げには、消防団の協力を得て安全の確保に努める。

3) 前回の事業開催時には備品の多くは無償借用であったが、今後事業を継続・発展させるためには備品の購入やリース、有償借用が必要である。

第2回 みんなの津久井湖夏祭り収支予算書

(単位：円)

1 収入の部

項 目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	比較増減額 (A) - (B)	内訳
市交付金	578,000	0	578,000	
補助金	0	200,000	△ 200,000	がんばる商店街等応援補助金
協賛金	1,500,000	1,200,000	300,000	㈱生物技研、医療法人社団 緑相会、エムズ歯科、横浜トヨペット他
雑収入	150,000	46,000	104,000	出店料
	50,000	50,000	0	実行委員会売店売上
	60,000	0	60,000	フリーマーケット出店料
繰越金	3,000	0	3,000	
収入合計	2,341,000	1,496,000	845,000	

(単位：円)

2 支出の部

科 目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	比較増減額 (A) - (B)	説明
一般経費	2,291,000	1,446,000	845,000	
報償費	80,000	50,000	30,000	出演者謝礼(お囃子、ステージ出演者) 50,000円 備品借用謝礼(トラック、提灯、イス、テーブル等) 30,000円
消耗品費	286,000	295,000	△ 9,000	発電機燃料費・トラック燃料費 15,000円 フォトブース 12,000円 事務消耗品(ガムテープ、ゴミ袋、除菌アルコール等) 70,000円 灯ろう(竹・紙) 100,000円 イベント消耗品(掲示板、提灯用垂木) 50,000円 Tシャツ(ユニフォーム30枚) 39,000円
手数料	10,000	10,000	0	ゴミ焼却費 10,000円
使用料	20,000	20,000	0	公園利用費 10,000円 駐車場借用 10,000円
食料費	92,000	50,000	42,000	ボランティアスタッフ用弁当・お茶代(80人) 80,000円 ボランティアスタッフ用お茶代(80人) 12,000円
委託費	1,340,000	950,000	390,000	会場警備委託(25人) 500,000円 花火 840,000円
印刷製本費	90,000	53,000	37,000	チラシ・ポスター作製費 60,000円 デザイン費 30,000円
保険料	50,000	10,000	40,000	保険料 50,000円
広告費	50,000	0	50,000	タウンニュース等 50,000円
備品借上料	273,000	8,000	265,000	テント借上料 195,000円 音響設備 50,000円 無線機借上料(10台) 20,000円 発電機 8,000円
特別経費	50,000	50,000	0	
備品購入費	50,000	50,000	0	オリジナル提灯 50,000円
支出合計	2,341,000	1,496,000	845,000	

※特別経費：交付対象経費のうち1万円以上の財産を購入する場合は、この欄に記入

